

採卵後の分娩が次の採卵に及ぼす影響

福島県畜産試験場 沼尻支場・平成10年度畜産試験場成績概要

1 部門名 畜産－肉用牛－畜産繁殖 分類コード 07-02-38000000

2 要旨

供卵牛を長期間供用するために、数回採卵後繁殖に供し1年おきに分娩させて卵巣を休養させる手法について検討した。

(1) 採卵方法

正常な発情周期の黒毛和種に過剰排卵誘起処置(FSH-R製剤アントリン22～24AU)を行い、非外科的に採卵を実施した。反復採卵の間隔は2ヶ月以上とした。また、採卵後は2%ホボピドンヨード剤50mlの子宮内注入とPGF2 α (ジノプロストとして25mg)の筋肉内投与を実施した。

(2) 分娩が採卵成績に及ぼす影響

3産次までに供卵牛15頭は全てが繁殖障害あるいは繁殖成績不良等により廃用あるいは繁殖専用牛となった。

供卵牛を退役するまでに採卵回数が最も多かった牛は11回、最も少なかった牛は6回で供卵牛15頭の平均は8.7回であった。

初産次は4回目・2産次は4回目・3産次は3回目までの15頭の平均の採卵成績を分析すると総正常胚数については分娩後初回成績が分娩前最終回に比べて、全ての産次で増加していた。

また、採卵回数を重ねるにしたがい総正常胚数については減少傾向を示していた。しかし、供試牛の中には、採卵回数を重ねても減少傾向がみられない個体や全体を通して回収率の悪い個体もみられた。

以上の結果から、1年おきに分娩を取り入れた反復採卵の場合、3産次の採卵の時には雌牛が7～8歳と高齢で耐用年数を越えており、繁殖障害等がみられたので3産次反復採卵が限度と思われる。